

TCU Quarterly

—都市大だより—

2020.MAR.

No.215

2020年3月19日発行

東京都市大学 企画・広報室

東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104 <http://www.tcu.ac.jp>

CONTENTS

- 02 特集1 第1回 東京都市大学
ビジネスプランコンテスト
- 04 特集2 東京都市大学 第3回APシンポジウム
- 06 インターンシップ 成果報告会
- 07 2019年度 卒業生の就職状況
- 09 2019年度 就職内定先一覧
- 16 2019年度 進学先一覧
- 17 人事発令／表彰
- 19 2019年度 大学院論文主題
- 20 2020年度 入試速報
- 28 2019年度 学生表彰
- 31 2020年度 学生団体役員
- 32 課外活動
- 36 研究紹介
- 37 PERSON／BOOKS
- 38 NEWSラウンジ／夢キャン通信
- 40 Information
(東京都市大学 横浜祭／オープンキャンパス／
東京都市大学 校友会)

特集1 オリジナルのビジネスプランで真剣勝負! 目指せ起業家!

第1回 東京都市大学 ビジネスプランコンテストを開催

TOKYO CITY UNIVERSITY BUSINESS PLAN CONTEST 2019





共通教育部 人文・社会科学系 准教授

丸島 和洋

PROFILE

2005年慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。2008年同博士(史学)。慶應義塾大学文学部古文書室研究員、同大学文学部非常勤講師、国文学研究資料館研究部特任助教、立教大学文学部兼任講師、国土館大学文学部非常勤講師、日本女子大学文学部非常勤講師などを経て、2019年より東京都市大学共通教育部人文・社会科学系准教授に就任。著書に「戦国大名武田氏の権力構造」、「戦国大名の「外交」」、「真田四代と信繁」、「武田勝頼」など多数。2016年のNHK・大河ドラマ『真田丸』で時代考証を担当。

古文書などの膨大な史料を読み解き「戦国大名」の権力構造を明らかに!

2016年のNHK・大河ドラマ『真田丸』で、丸島和洋准教授は、史実に即しているかどうかを確認する「時代考証」の一翼を担いました。新たに判明した研究成果を盛り込むよう助言するなど、脚本作りの段階から関わったといいます。毎回放送直後にはツイッターで視聴者からの質問に丹念に答えて評判を呼び、フォロー数は2万人近くを記録しました。そんな場面でも丸島先生が、その専門の「歴史学」と向き合う真摯な姿勢があらわれています。

歴史学を研究し、学ぶことは事実を見つめる正しい目を養うこと

丸島先生の研究テーマは「戦国大名論」。戦国時代の書状や命令書、法令、帳簿、日記などを発掘、検討、分析することで、当時の権力構造や大名同士の外交の仕組みなどを明らかにしています。「史実にたどり着く



浅野長政家臣連署状(丸島所蔵文書) / 豊臣秀吉の時代、甲斐国(山梨県)を治めていた浅野長政(後の五奉行)の家臣が、村落の有力百姓に与えた文書。田畑を荒らす鹿や猿を追い払うために、鉄砲1挺の所持を認めたもの。「刀狩令」が出され武器が没収された後なのに、百姓が鉄砲所持を認められている点に注目。刀狩の通説は現在一変している。

には、史料を鵜呑みにせず、批判的に読み解くことが大切です。たとえば『本能寺の変』の直後、(のちの豊臣)秀吉は明智光秀を討伐する時間を稼ぎ、織田信長配下の動揺を鎮めるため、「上様は無事」との書状を出しますが、その時には信長は亡くなっています」と丸島先生は紹介し、「歴史学を学び、研究することは、鋭く事実を見極める目を養うことだと思います。学生の皆さんにその醍醐味を知ってほしい」と話します。

九州北西部の戦国大名論を探求し 中近世移行期の全体像を明らかに

現在、丸島先生はこの10年間で執筆した多くの論文をまとめて書籍化する作業に取り組んでいます。その際、全面的に加筆訂正し、改めてまとめた筋立てに作り変えるそうです。また、これまで東日本の戦国大名を研究してきた手法を生かして、有馬氏や大村氏など九州北西部の戦国大名にスポットを当て、中近世移行期における大名権力の構造を、独自のアングルから俯瞰的に捉え直したいとも語ります。「電子顕微鏡を用いて文書の紙質を検証するなど新しい手法も登場しています。私なりのセオリーに、さまざまなアプローチを加えながら、これまで見えなかった歴史的な事実を日の目を当てたい」と、熱く語る先生の眼差しには、歴史を心から愛する者の情熱が宿っています。

研究 紹介

Research Introduction

持続可能で心豊かな未来社会を実現するためにライフスタイルを変革する

資源やエネルギーの枯渇、食料・水不足、生物多様性の劣化、地球規模の気候変動など様々な問題が深刻化しています。過剰な利便性と物質的な豊かさを追求する私たちの日常生活を見直さなければ、地球環境はさらに悪化の一途をたどっていかもれません。古川柳蔵教授は、自治体や住民あるいは企業と連携しながら、未来に続く持続可能で心豊かな社会の実現を目指す、実践的な研究を展開しています。

将来の厳しい環境制約を想定しながら 未来のありたいライフスタイルを創造する

古川先生は、「バックキャスト」という手法を用いて、現在、秋田県湯沢市、岩手県北上市、栃木県栃木市、東京都杉並区、兵庫県豊岡市、三重県志摩市、鹿児島県の沖永良部島の全国7地域で、既存のライフスタイルを変革するためのプロジェクトを実施しています。バックキャストとは、厳しい環境制約を受け入れた上で、ありたい



ライフスタイルを変革するためのプロジェクトを実施しています。バックキャストとは、厳しい環境制約を受け入れた上で、ありたい

岩手県北上市における「北上ライフスタイルデザインプロジェクト」の一環として、子どもから大人までが楽しめる「秘密基地」を住民たちと構築

未来の姿を想定し、逆算して今何をすべきかを考える思考法のことです。ところが、たとえば30年後の未来の具体像を導き出すのは容易ではありません。そこで古川先生は、90歳前後の高齢者に、未来の環境制約に類似した制約を受けていた戦前の暮らし方について聞き取りを行い、その地域に必要な価値観や魅力を明らかにする「90歳ヒアリング」という独自の手法を組み合わせて、より良いライフスタイルを住民自らが描き出すためのサポートを行っています。

ライフスタイルの変革をきっかけに 都市部に集中する経済的豊かさを地方に分配する

他にも先生は、環境負荷を低減するための自然界の力に学ぶネイチャーテクノロジーを採用したり、最先端の情報科学的な手法をライフスタイルの評価に応用したりするなど、多角的な方法で、生活様式の再構築に取り組んでいます。ライフスタイルの変革は、環境問題の解決に寄与するだけではありません。「その地域の隠れた価値や魅力を掘り起こすことで、都会で味わえない体験を求めて人やお金が地方に環流する。地方創生の切り札にもなりそうです」と古川先生は説明します。

心豊かに過ごせる社会を次の世代に引き継いでいくため、先生は今日も未来を見つめ続けます。



環境学部 環境経営システム学科 教授

古川 柳蔵

PROFILE

東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了、博士(学術)。民間シンクタンク入社後、東北大学大学院環境科学研究所先進社会環境学専攻環境政策学講座イノベーション戦略学分野准教授などを経て、2018年4月東京都市大学環境学部環境マネジメント学科(現 環境経営システム学科)・同大学院環境情報学研究科教授に就任。グッドデザイン賞、生物多様性アワード優秀賞など受賞歴多数。著書に『Life Style and Nature』(Pan Stanford Publishing)、『正解のない難問を解決に導くバックキャスト思考』(共著)ほか。